

個人所有



14

伊勢社
いせしや

南都田字濁川 179

慶長9年(1604)、今の福島県いわき市から岩城氏の家臣猪狩氏ら10名が、浅野地区に移住。その後、猪狩氏は松岩寺とともに墓守を残し岩谷堂に移る。その猪狩氏の氏神様が伊勢社である。

個人所有



13

塚の越
つかこし

南都田字浅野 367

塚の越は、江戸時代に秋田へ通じる旧仙北街道の一里塚の名残ともいわれる。丁度、奥州街道分岐点から4km弱の距離に塚の越がある。この石神馬像(地元では石馬つこ)は、浅野で馬車引き(今の運送業)をしていた人たちが、戦で死んだ軍馬の供養と馬の無病息災を願って建立したもの。また、金精神も合祀されている。

12

宝蔵山 宝寿寺
ほうぞうざん ほうじゅじ

南都田字上岡岡 400

金ヶ崎永徳寺 13世高寒秀天和和尚が弘治元年(1555)開山。曹洞宗で本尊は釈迦如来。宝暦2年(1752)の棟札には、庫裡建立の際、先祖が植えた杉の中から100本を伐採し、その代わりに苗木300本を植えたことある。当時の山林保護に対する考えが示され興味深い。また境内には、掃部長者物語で、さよ姫がいけにえとして四ツ柱に行く前に川で行水を行って、垢を取ったといわれる垢取石がある。

11

久須志神社
くすしじんじや

南都田字化粧坂 330

明治4年(1871)旧南下幅村村社となる。南下幅地区の栗野善知の耕地整理に伴い、薬師堂の隣に遷座された神社である。そこに合祀されている宇南権現は、現在も元の地の畦畔に石祠が残されている。

10

見分山 薬師堂
みわけざん やくしどう

南都田字化粧坂 330

天台宗平泉中尊寺の末寺。慶安年中(1650)頃、修験堂性院が病床にあって夢告を受け、荒れ果てていた薬師堂跡から松浦さよ姫が守り本尊としていた像を掘り起こし再興したものという。像の大きき一寸八分。本尊は33年に一度の御開帳で、次は平成39年(2027)である。眼病に靈験あらたかな薬師清水のお堂として、宮城県北から岩手県南東の信仰を最近まで集めていた。

ふるさと南都田を再発見しよう

～祈りと信じる心が南都田を創る礎となって



●梵字碑(谷地中)
梵字とは、インドのサンスクリット文字に起源する仏教用語。彫られている文字は「パン」と読み、大日如来を意味する。

「中世の板碑」

地図記号凡例

- 寺社
- 高校
- 史跡
- 郵便局
- 駐在所
- 病院
- ガソリンスタンド

平成26年(2014) 3月1日 発行

※漢字は現在の表記にしています。ふりがなは現在の読み方です。
 ※史跡は個人の敷地内にある場合もあります。一般家庭の場合、無断の入場はご遠慮ください。
 ※見学の際、交通の妨げにならないようご注意ください。
 ※史跡についての詳細は、胆沢町史をご覧ください。

個人所有



9

見分山 宝性院
みわけざん ほうしやういん

南都田字化粧坂 265

宝性院は羽黒派の修験で、今から約400年程まえの開院と伝えられる。修験とは、日本で発生した山岳宗教で、山伏などで有名。修験は加持祈禱を中心に災いを除き五穀豊穡・招福を祈念するもので、さらに医療や文化芸術にも精通する者も少なくなかった。宝性院は、明治の神仏分離後は、天台宗の見分山宝性院として中尊寺の末寺となった。

8

国分山公園
こくぶんやまこうえん

飯塚家墓群 南都田字国分

江戸時代から明治維新直後まで、近くに伊達家家臣の国分(こくぶん)氏が在郷屋敷を構えていた。字名「国分(こくぶん)」はこの国分(こくぶん)氏に由来するもの。公園は国分氏と類縁者の墓所。現在国分氏の菩提は宝寿寺でも扱われている。

7

伊勢神社
いせじんじや

南都田字四ツ柱 171

旧南都田村村社。地元では「御伊勢堂」とよぶ。境内には昭和13年(1938)建立の「馬神像」台座が残る。馬神像は、不幸にも戦地で死んだ軍馬の慰霊と農耕馬の安全を祈願して建立されたもの。馬と共に歩んできたひとつの時代を垣間見ることができる。また、「行山羅供養」碑は、地域の伝統芸能として既に都鳥鹿踊りが嘉永4年(1851)には踊られていたことを証したものである。

1

国指定史跡 角塚古墳
つづかこふん

南都田字塚田

本州最北端の前方後円墳として、昭和60年(1985)に国指定史跡になった古墳。今からおよそ1550年前につくられたもので、この地方の豪族の墓地と考えられる。「塚の山」とも言われ、高山掃部長者の妻が大蛇に変身し、農民を苦しめていたところをさよ姫がお経の力で退治し、その大蛇の角を埋めたという伝説も残る。

2

栗野善知翁石碑
あわのぜんちおうせきひ

南都田字宇南田

岩手県初の耕地整理事業の指導者栗野善知の顕彰碑。善知は、明治34年(1901)南下幅地区の耕地整理に着手。同43年(1910)完工した。耕地整理事業は、南下幅の高橋音四郎を始めとする多くの南都田地区民の血のじむよな後処理があって達成された。戦後、農地改革を機に善知が再評価され、昭和27年(1952)顕彰碑が建立された。

3

机永山 盛興院
きえいざん せいこういん

南都田字郷田 60

金ヶ崎町にある永徳寺の末寺の一つ。曹洞宗で本尊は阿彌陀如来。胆沢地方は鎌倉時代以降柏山氏が400年間治めるが、寺伝によれば家臣の机地平蔵盛興が敷地等を提供し、永徳寺 10世東菊和尚が享禄元年(1528)開創。山号・寺名はこの机地氏の名や永徳寺から採用。

個人所有



4

熊野社
くまのしや

南都田字熊野 128-3

旧柳田村村社。江戸時代の熊野権現社。平安時代から江戸時代までは全国津々浦々に熊野信仰が広まる。これは御師(おし)によって広められるが、当社もその一つである。また、正徳4年(1714)の棟札は南都田地区最古である。

個人所有



5

田之神社
たのかみしや

南都田字石仏 274

旧胆沢町内唯一の田之神社である。若柳猿岩の作神像を分祀したもので「作神様」と呼んでいる。祭祀している家族によれば、昭和30年(1955)頃まで猿岩のユキツバキをお供えていた。祭日は土橋のお祭りと同じ日。